

怖さの中にも人間の機微

「松江怪談」を刊行

小泉八雲の作品や、公認から生まれた新作を集めた「松江怪談」が完成し、14日、山陰両県の主要書店で販売が始まった。怖さの中にも人間の機微が描かれた内容で、松江を題材にした作品も紹介している。

(曾田元孝)

松江

怪談を通して松江の魅
力を高めようと、元文芸
春秋編集長で松江観光
協会観光文化プロデュ
ーサーの高橋一清さん
(左)が編集し、今井印刷
(米子市富益町)が発行
した。

怪談を通して松江の魅
力を高めようと、元文芸
春秋編集長で松江観光
協会観光文化プロデュ
ーサーの高橋一清さん
(左)が編集し、今井印刷
(米子市富益町)が発行
した。

「星上山の地蔵」とは、



「松江怪談」を紹介する高橋一清さん

ほかに、松江を舞台
にした八雲の「小豆磨き
橋」など3編や、八雲の
ひ孫の小泉八雲のイン
タビュー、作家・辻原登
さんの八雲観も収めた。
高橋さんは「この作品
も大変な方量。松江の雰
囲気が伝わる一冊に仕上
がった」と話している。
価格は1080円。

平成 27 年 10 月 15 日 付け ・ 山陰中央新報

学生の県内就職率上昇へ

島大と県立大 文科省事業に採択 松江高専連携

島根県立大、松江工
業高等専門学校が若者の地
元着に取組む事業が、
高等教育機関を支援する文
部科学省の「地(知)の拠
点大学による地方創生推進
事業」に採択された。3大
学・高専が連携し、学生と
地元企業のマッチング事業
を展開。今後5年間で学生
の県内就職率を10%上昇さ
せる。

同事業は本年度創設さ
れ、文科省が申請のあった
56件のうち40件を選んだ。
補助金額総額は1事業当た
り680万円。

採択された事業名は「地
域未来創生人材の育成を加速
するオールしほね協働事
業」。3大学・高専は、企
業と学生が集まる「異業種
大交流会」を定期的に開催
するほか、研究施設を一般

を10倍増の451名に引き
上げるほか、共に研究を進
める40の企業団体・法人へ
のインターンシップ参加者
と就職者数を、それぞれ約
1300人、約20人増やす。
松江市西川町の島根大
松江キャンパスでこのほ
かに、服装泰島根大、井上
本由雄一県立大、井上
明松江高専校長が記者会見
した。服装学長は「島根が
若者にとって魅力的な地域
になるよう、一丸となって
取り組む」と強調した。
併せて島根大と松江高専
による包括連携協定の締結
式があり、事業採択を機に
人材交流や共同研究に取り
組む方針を確認した。
(佐々木一全)

平成 27 年 10 月 17 日 付け ・ 山陰中央新報

講座・講演

あまんきみこさんと語る
秋の一日

11月1日午前10時から、松江市浜乃木の県立大松江キャンパスで。童話作家・あまんきみこさんの講演会。あまんさんは1931年旧満州（中国東北部）に生まれ、1968年に「車のいろは空のいろ」（ポプラ社）でデビュー。「ちいちゃんのかげおくり」（あかね書房）や「おにたのぼうし」（ポプラ社）など、誰でも一度は読んだことのある童話を数多く紡ぎ出している。初来県

となる講演では、自身の作品や人生について学生との対談形式で語る。園おはなしレストランライブ러리
3。 ☎ 0852・26・556

平成 27 年 10 月 25 日 付け ・ りびえ ～ る vol.418

松江

古本のフリマで
本好きが交流

カラコロ工房

古本のフリーマーケット「BOOK在月」が24日、松江市殿町のカラコロ工房で開かれた。26の個人・団体が出店し、来場者は本との出会いや本好きの出店者との会話を楽しんだ。

BOOK在月は「松江を本の街にしよう」と本好きが集まって実行委員会を結成し、2013年10月に初めて開き今回で3回目。古本を箱に詰めたまま販売す



古本を話題に会話を弾ませる出品者（左）と来場客

る「一箱古本市」のほか、書評合戦・ヒプリオバトルなどの催しや飲食ブースを設けて交流している。出店者は地べたに敷いたシートの上に、小説や評論本、雑誌、漫画など思い出の品々を並べ、1冊100円前後で販売。中には数十年前に発刊され、茶色く色付いた年代物もあり、古本談義が盛り上がった。初出店した松江市佐草町のアルバイト引野哲也さん

平成 27 年 10 月 25 日 付け ・ 山陰中央新報

